

COLUMN



インターネット

生活向上委員会

10

Web ページのチェックを効率的に

—アンテナ, RSS—

森崎 修司 ((株) インターネットイニシアティブ)
morisaki@ij.ad.jp

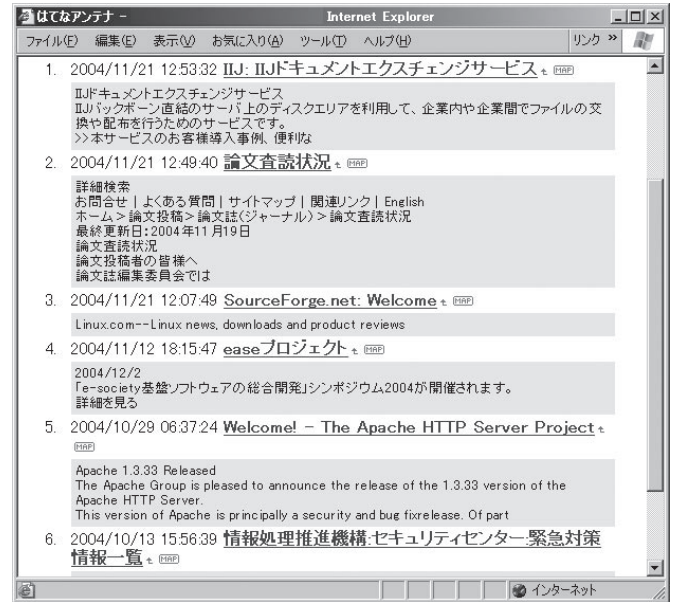


図-1 アンテナページの画面例

新製品紹介のWebページ、著名人のコラム、知人のWebページなど不定期に更新されるWebページを週1回などのペースで巡回していることはないだろうか？ また、毎日昼休みに複数のニュースWebサイトを巡回していたりしないだろうか？ 今回はWebサイト、Webページを効率的にチェックするためのツールを紹介する。両ツールとも利用者がチェックしておきたいWebページを登録しておけば、ツールが定期的に巡回して最終更新時刻を提示してくれる。

●アンテナ●

アンテナは複数のWebページへのリンク一覧とそれぞれのリンク先の最終更新時刻の一覧を利用者に提示することを目的としたソフトウェアである。図-1にアンテナが生成したページの例を示す。図-1中の1~6までの番号が更新をチェックするWebページと対応する。各番号のとなりにある日時が最終更新時刻、右側のタイトル部分がそのWebページへのハイパーリンクである。その下の灰色で囲まれた部分はWebページのテキストの冒頭の部分である。一覧に含めるWebページは利用者が独自に定義することができるため、利用者は最終更新時刻付きのリンク集のように利用できる。最終更新時刻はアンテナツールが定期的にリンク先を巡回し、生成、更新する。

アンテナは、サービスとして提供されるサービス型とWebサーバなどにインストールするインストール型に大別できる。まずは使ってみようという場合には「はてなアンテナ¹⁾ (図-1)」などのサービス型が便利である。更新チェックの間隔など自分でカスタマイズしたい場合には「朝比奈アンテナ²⁾」などのインストール型が便利である。

利用者は、はじめに更新をチェックするWebページを登録する必要がある。サービス型のアンテナではWebページから更新をチェックするURLを登録することができる。アンテナは登録されたURLを定期的に巡回し、図-1のような一覧を生成する。利用者はいったんWebページを登録すれば以降は図-1のページを定期的に見ることで、更新をチェックしたい複数のページを一度にチェックできる。

●RSS●

RSSはWebページの著者やWebサイトの管理者がWebページのURL、更新時刻、簡単な説明を公開するためのXMLフォーマットの定義である。アンテナが原則として、利用者が登録したWebページの差分や更新時刻をもとに更新時刻を取得するのに対し、RSSでは著者や管理者がItemと呼ぶ項目にWebページのURL、更新時刻、見出しなどを登録し、利用者はそこから更新時刻を取得する。Itemは1つのRSSの中に複数含めることができ、それぞれのItemにはURL、見出し、簡単な説明、更新時刻が含まれる。ニュースサイトの場合には、1つのニュース記事を1 itemにすることが多い。

RSSには0.9系、1.0系、2.0系のバージョンがあり、バージョンによりスキーマが細かい部分で異なる。たとえばWebサイトの著作権者を含ませることができたり、Itemの最大数に制限があったりする点異なる。RSSという略称はすべてのバージョンで同一であるが、正式名はそれぞれ異なっており、RDF^{☆1} Site Summary (0.9, 1.0系)、Rich

☆1 Resource Description Framework.

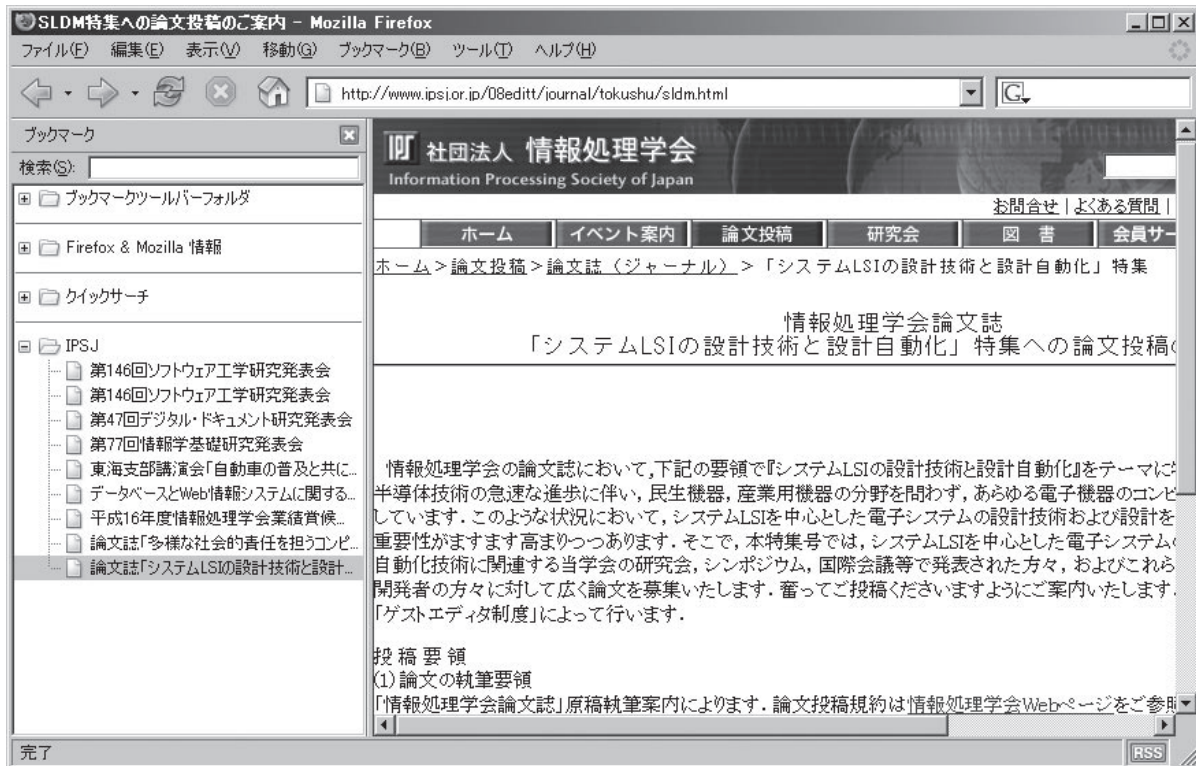


図-2 RSSリーダの画面例 (RSSはIPJSカレンダーから手動で生成)

Site Summary (0.9x系), Really Simple Syndication (2.0系) である。また、上位バージョンが必ずしも下位バージョンとの互換性を持っているわけではない。

利用者はRSSリーダ(クライアントソフトウェア)やRSSをもとに生成されるWebページを利用して、更新情報を得ることができる。RSSリーダには専用ツール、Webブラウザやメーラのプラグイン、Webブラウザやメーラの1機能として実現しているものがある。Firefox1.0³⁾はRSSリーダ機能をブックマーク(ライブブックマーク)として実現しているWebブラウザである。Opera⁴⁾はメーラにRSSリーダ機能を備えている。

利用者は最初にRSSが公開されているURLをRSSリーダに登録する。本稿ではFirefox1.0での登録方法を紹介する。Firefox1.0では閲覧中のWebページのHTMLに<link rel="alternate" type="application/rss+xml" title="RSS" href="http://example.jp/index.rdf"/>のような記述があると、図-2のようにウィンドウ右下に“RSS”と書かれたアイコンが表示される。アイコンをクリックするとlinkタグで指定されたRSSがブックマークに加わり、定期的に更新情報を得ることができる。図-2中のウィンドウ左側の上から4つ目のフォルダのアイコンがブックマークに追加したRSSを表しており、各ニュース記事(Item)はフォルダの下層のWebページとして表示されている。各記事をクリックすることにより、ニュース記事全文(ItemのURLで示されるWebページ)がウィンドウ右側に表示される。

Itemの更新はFirefoxが定期的に行う。複数のサイトのRSSを登録しておけば、各サイトに訪れてリンクを辿ることなく、読みたい記事をブックマークの一覧から直接選ぶことができる。

通常、RSSが利用できるWebサイトのトップページ(<http://example.jp/index.html>など)のHTMLには、<link>タグでRSSのURLの所在が示されていることが多い。ハイパーリンクとして“RDF”、“RSS”(“XML”と書かれたものもある)というアルファベットが書かれたアイコンで示されている場合もある。

更新情報を効率的に調べる方法としてアンテナとRSSを紹介した。実際にRSSリーダを利用してニュース記事を読めばその有用性を実感していただけると思う。Webログツールやwikiツールの多くは編集内容からRSSを自動生成する機能を標準で備えており、これらの普及とともにRSSも普及することが期待される。

参考文献

- 1) はてなアンテナ, <http://a.hatena.ne.jp/>
- 2) 朝比奈アンテナ, <http://masshy.fastwave.gr.jp/hina/release/>
- 3) Firefox Rediscover the web, <http://www.mozilla.org/products/firefox/>
- 4) Opera Web Browser, <http://www.opera.com/>
(平成16年11月29日受付)